

知事記者会見の概要

日 時：令和2年3月31日(火) 15:00～15:53

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、健康福祉部長、医療統括監、
防災くらし安心部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：23名、テレビカメラ8台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 県内における新型コロナウイルス感染症の確認事例について（第1例）

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

本日、本県の1例目となる新型コロナウイルスの感染者が確認されましたのでお知らせいたします。

感染者が確認されたのは、20代女性で、神奈川県在住の方です。3月24日に「米沢ドライビングスクール」の運転免許合宿に参加するために来県をされております。現在、濃厚接触者の把握を含めた、詳細な調査を実施しているところです。また、発症前14日以内の海外渡航歴はございませんが、来県前の感染と考えられ、その間の行動歴や感染経路を現在確認中であります。

3月27日に発熱などの症状があり、29日夕方に置賜保健所に相談がありました。昨日30日に、「新型コロナ感染症外来」を受診し、検体を採取、本県の衛生研究所でPCR検査を実施し、本日31日、陽性と確定をいたしました。現在は軽症で、病状は安定しており、感染症指定医療機関に入院する予定でございます。

今後の対応としましては、感染者と濃厚接触のあった方に対し、健康観察を実施しますとともに、万が一、症状が出た場合には、速やかに保健所に連絡いただくよう指導してまいります。

なお、先ほど開催しました「山形県新型コロナウイルス感染症に係る危機対策本部員会議」におきまして、私から4点申し上げたところです。1点目は、積極的な疫学調査の確実な実施、2点目は類似事案での感染予防の徹底、3点目は正確な情報の提供、そして4点目は県民の皆さまへ感染予防策を徹底するよう改めて周知をするというこの4点を各部局に指示いたしました。

ここで、県民の皆さまに申し上げます。明日から新年度となります。全国的にでもありますが、本県でも多くの方が移動する、そういう時期でございます。専門家などの意見も踏まえたと、少なくともこれから2週間は、県内でも感染者数が増加する可能性が高いと思われれます。

そこで、県民の皆さまには、次の3点にご留意いただきたいと思います。

1点目ではありますが、くれぐれも冷静に行動していただきたいということです。そして今後も丁寧でこまめな手洗いや咳エチケット等の感染予防策を徹底してくださるようお願いいたします。

2点目は、28日にもメッセージ、県民の皆さまにお願いをいたしました。感染拡大防止のため、当面の間、県外との不要不急の往来は控えていただくようお願いいたします。

今回の事例は首都圏からの方でございました。また、仙台でも発生したという報道もございますので、他県でも仙台に行って感染したという報道もあるところでもあります。特にですね、これらの地域との往来をお控えいただき、何回も申し上げますが、当面の間は、県内で有意義な時間を過ごしていただきたいと思います。

また、全国的に若者が移動して感染した例がみられるところでもあります。自分は大丈夫

だと思っても、高齢者や持病をお持ちの方に感染させて、重症化させてしまう、そういうリスクがありますので、十分ご注意くださいと思います。

最後ですけれども、マスクのことです。マスクは、政府からも提供されておりますけれども、まだまだ行きわたっている状況にはございません。県内の施設や企業からは全く足りていないとの声も聞かれるところでもあります。県内において布マスクの製造が可能な縫製業者の方々には、この布製の県産マスクの供給にご協力をいただければと思います。使い捨てですと、いくら使ってもですね、次々と必要なわけでもありますので、充足に限りがございます。布製ですと洗濯してまた使えるというようなこともございますので、まだまだ県内で、また県内外で需要が多いと見込まれますので、そういった取組みも考えていただければというふうに思います。

本県でも、とうとう感染者が確認されまして、段階が一段階上がったというふうに捉えているところです。今後、新たな感染者の発生や感染拡大防止ということが非常に重要になってきます。県民の皆さまと一丸となって取組んで、この難局を乗り越えてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

そして、報道機関の皆さまにもお願いがあります。患者の方及びご家族の方の情報の取扱いにつきましては、個人情報保護の観点から、ご配慮をお願いいたします。そして施設や医療機関等への取材はご遠慮いただきますようお願いいたします。

私からは以上でございます。

☆フリー質問

記者

読売新聞の山口と申します。まず個人的なプロフィールのことなのですが、この方、大学生とか職業のほうはいかがでしょうか。

医療統括監

はい、20代女性ということで、職業は申し上げられません。

記者

わかりました。本県に来るまでの移動手段は。

医療統括監

神奈川からですので、24日の日に山形新幹線で来られてますけれども、米沢駅まで来てますけれども、初発27日の夕方、発熱ですけれども、3日以上前ですので、その時期の感染性は全くないだろうと考えて、ここには記載していませんけれども、新幹線利用者への感染というは心配ないと考えております。

記者

わかりました。どこから乗って米沢まで来たということなのですか。

医療統括監

神奈川ですから東京だと思います。

記者

わかりました。感染がですね、本県に来る前と推定される理由を。

医療統括監

潜伏期が平均5日以上が多いのです。潜伏期からして、この方は24日より前に神奈川県とか、いろいろ行動していると思いますけれども、来県前の行動歴の中に感染経路があると推定して詳しい調査、どういう、ここに来られる前に飲食を伴うような活動をしていないかとか、うつりやすいカラオケだとか、調査票を、アンケートを作っていました、新型コロナ感染症外来を受診になる時には、保健所のほうでアンケートのようなものを作っていました、感染経路となるようなものがないかどうかを2週間にわたって、発症から2週間前に遡っていろいろ調査をしているのですが、その回答を見てその内容を確認する作業とか、それから、今からしますけれども、書いてあるところを現地の保健所と言いますか、神奈川方面の保健所のほうにそういった、その施設にクラスターとなった感染者が他にいないかとかですね、そういった調査をしながら、感染経路の探求にあたっていきたいと思っております。

記者

濃厚接触者の把握はこれから努めるということだったのですが、少なくともどれくらいはいらっしゃるとか、そこら辺の人数的なところがあれば。

医療統括監

最も濃厚なのは、一緒にドライビングスクールの合宿に来たということで、直営の宿舎がありまして、ホームページで調べていただくと出ていますけれども、マンション形式の宿舎に3人でということなので、同じお部屋で合宿しながらというのが一番の濃厚接触者ですね。

そういった方と、それから小グループで、たとえばいろいろ教習すると思いますけれども、その教官の方、それから直営の宿舎からドライビングスクールまでの送迎をする車のドライバーの方と、そういった方がまず一番最初の濃厚接触者ということで第一優先のPCR検査の対象ということになりますけれども、PCR検査は本来であれば発症直前だとか、発症後に検査をすれば陽性が出やすいわけですがけれども、全く無症状の時に検査をしても、それで陰性だから大丈夫と言い切れない状況がございますので、ただ、最優先ということ

で、24日からこれまで1週間くらい経っていますので、24日に一緒に来て感染したとすれば、7日くらい経っているので、検査をすればもしかすると発症前でも感染がなっているかもしれないということがあるので、第一優先はその濃厚接触で早い時期からの終わった人についてPCR検査を本日から始めたいということでやっていますけれども、順次その教習生と職員、同じ日からスタートした教習生だとか、そういう接触度の濃厚度に応じて検査日程を組んで、PCR検査を行いつつ経過観察を2週間行おうと。陰性であっても、2週間の健康観察は続けるという、そういう方針で保健所のほうで教習所のほうとリストアップして、経過観察の計画と検査の計画を作っているところです。

記者

すいません、ちょっと前後するのですが、この方は、グループで来県されたのですか、一人で。

医療統括監

友達とということ、グループではないです。

記者

お友達と参加されたということですか。

医療統括監

そう聞いています。何人か全部の人数はわかりませんが。

記者

わかりました。あと、この方のドライビングスクール内の行動なんですけど、普通に自動車教習所なので講習を受けたり、教習車に乗ったりしたということもあったということですか。

医療統括監

だと思います。ちょっとこの日程、何日は何だという詳しいことまでは私、今この場では把握しておりません。

知事

これからですね。

医療統括監

これから。

記者

この方なのですが、今は県内の感染症指定医療機関に入院されているということですかね。

医療統括監

先ほど、本部員会議の時は、調整中ということでしたので、実は神奈川から親御さんが向かっているということもありまして、もしかすると神奈川県内のほうに戻って自家用車で戻って神奈川、地元の病院に入院を希望するかもしれないということで調整中だったのですけれども、先ほど調整結果として向こうには行っても病床はたぶん確保できないのではないかとということもありまして、山形県内の感染症指定医療機関に入院することとなりました。今準備していると思います。

記者

それはどなたと調整をされた結果ということだったのでしょうか。

医療統括監

それはですね、神奈川県の方の管轄の部署と。入院勧告というのは、入院をする病院の所轄のところでも入院勧告をかけるのですけれども、神奈川に戻ってからとなると、神奈川県の方の所轄の部署で入院勧告をかけてということになりますので、そういうこともあって神奈川県の方の担当部署ともやり取りをして、向こうに行つて入院となるのだったら向こうでやりますけどとか、そういう調整をしたので、お互いにそういう連携を取って決定したということです。

記者

神奈川県庁と連絡を取り合ったということですかね。

医療統括監

神奈川県にはいろいろ、神奈川県庁もあるし、政令指定都市や中核市もございまして、保健所設置市はたくさんございまして。

記者

その保健所を設置している自治体とかと相談したということですか。

医療統括監

そうです。

記者

ごめんなさい、最後に1点だけ。ドライビングスクールは、今は開校しているとかですね、そのまま継続するとか、そういった状況はいかがでしょうか。

知事

はい。本日、感染者の発生が確認されたことを受けて、自動車教習所では教習を中止するというふうに聞いております。教習生への説明については、本日、保健所も同席して説明会を行うと聞いております。

記者

NHKの後藤と申します。先ほどの本部員会議のほうでも県外から多くの人が集まる事業については、小まめな健康観察等をやっていきましようというお話ありましたけれども、こういう形で県外から多く集まる時期でもある中で、そういう事業とかそういう場所について対策の徹底ということで通知も含めてですね、今後知事としては感染拡大の防止をするためにどういう対応をとっていかうというふうにお考えでしょうか。

知事

はい、これまでもそういった内容がわかった範囲でですね、健康福祉部のほうで注意を喚起をしていたというふうに聞いているところです。これからもやはりしっかりと、さらに一層ですね、そういったことを励行していただくようにしたいというふうに思います。

記者

人が他に集まる場所について、当面たとえば中止をしてくださいとかですね、そういう事業の遂行、特に県外から人が集まりやすいものについては県有施設だけではなくて、たとえば中止とか参加を見送るとかですね、そういう何か指示を出すとかそういう考えというのは現時点でありますか。

知事

そうですね、イベントというようなことについては、もう中止したり延期というようなことですね。県がそういった考え方を説明してございますけれども、それに準じていただくようなことを申し上げてきたところであります。ただ、民間の方のそういった営業とかですね、あと会議、打ち合わせといったことに対してどういうことができるかですね、さらにちょっと検討してみたいと思います。

記者

荘内日報の松田です。こちらの神奈川県女性の行動歴の話ですけれども、把握してい

たら教えてほしいのですけれども、こちら24日に米沢市に来て以降、教習所の外でたとえば友達と一緒に飲食などをしたということはわかっていますでしょうか。要するに教習所の外に出てどこかの飲食店に立ち寄ったとか、そこで食事をしたとか、そういった行動歴はわかっていますでしょうか。

医療統括監

今、調査中です。

記者

その調査はどのくらいでわかりそうですかね。

医療統括監

日曜日から聞いていますけれども、主に今までは感染経路につながるような、経路の究明につながるようなことを中心にしていましたので、あと、そのあと学校での接触者とかの調査中心ですので、本人もかなり精神的にまいっている状況だと思いますので、その辺ご本人と保健所の通常面接員の保健師がやりますけれども、信頼関係を十分築いた上で積極的疫学調査と申しますけれども、調査を前提に面接に入るとブロックされてというか、必要な調査ができなくなることが経験的に多いので、まずはきちんと治るまで応援しますよという、そういう形で本人と面接をして信頼関係を築いた中でそういう詳しい調査をやるといのが基本でございますので、今そういうことでこれから詳しい調査になると思います。

記者

テレビユー山形の結城と申します。よろしくお願いたします。先ほどの質問とちょっと重なるかもしれないのですが、県内の行動歴という意味で言いますと、合宿免許というと全国からたくさんの方が集まる状況にあると思うのですけれども、県内在住者とはどの程度接点がおありになったのかとか、そういったところの情報というのはどの程度今把握されていますでしょうか。

医療統括監

今回のドライビングスクールに限ってですけれども、全体の教習を受けている教習生の中の6分の5くらいは県外から来られている方で、6分の1くらいが県内というもので、それが山形県の特徴と言いますか、全国一、山形県内で教習、自動車免許を取得する人の人数の何倍もの方が県内で免許を取るとい、全国一県外から免許を取りに来る人が多い県でありますので、そういう面で今回のところはこの時期実際リスクがあったんだなとつくづく感じております。その関連で先ほども質問ありましたが、自動車教習所に対しては、3月26日付で、健康福祉部長名で教習所内での密閉・密接・密集の3条件が重ならない

ような注意喚起の通知を出して、体温測定の徹底等も含めて、あと、教習の時には通常の車の換気だけではなくて、窓を少し開けながら教習してくださいとか、教官も受講生もマスクを付けてやってくださいとか、そういう通知を出したのですけれども、本日この事例を受けまして県外からの教習生の受け入れの自粛ですね、毎日何十人か入ってきます、県内全体では何十人というよりは百人を超える人が毎日入って来るかもしれませんけど、この事例を受けて新しい教習生の受け入れを止められないとか、あと、明日以降は教習開始前に体温測定と体調の確認を徹底していただいて、対策の強化を求める通知を改めて出したというところであります。

記者

ありがとうございます。ちょっと話が戻るのですが、今統括官がおっしゃった内容ですと、6分の5が県外から来ているというのは、これは今回の発症された20代の女性の時も全体の教習生のうちの6分の1程度は県内の方だったというふうに考えてよろしいのでしょうか。

医療統括監

今、この今回のドライビングスクールの今いる教習を受けている人の全体の数の中の6分の1にあたるくらいの方が、6分の1くらいの方が県内、県内それぐらいしかいないということなのですけれども。

記者

そうしますと、先ほど統括監がおっしゃった、教官でありますとか、あるいは送迎車の運転手の方ですとかという以外に、その6分の1の教習生の方とも何らかの接触があったと考えて、今調査に当たられているという認識でいいのでしょうか。

医療統括監

そうです。この、今回の感染された方と同じ日からスタートした人に県内が何人というのは、今は数字を挙げることはできません。今全体にいる人の中の人数で申し上げました。

記者

もう一つなのですが、合宿免許という特性上、県外からの方がたくさんいらっしゃっていたと思います。この20代の発症された女性の方が入ってくるタイミングと前後して、あるいは発症したタイミングと前後して、人の出入りというのは県外とあったのかどうか。たとえば全く同じパッケージングで皆さんずーっと行動しているわけではなくて、人の行き来が、出入りがある中で教習を受けていたのか、そのあたりのところというのはどうでしょうか。

医療統括監

はい。合宿はスクールの申込みを見ますと、大体毎日のようにスタートがあつて、2週間コースの日程で概ねなっているので、おっしゃるように、毎日入ってくる人と毎日受講終了する方と、スライドしていくというそういう状況の中で起きていると思います。

記者

先ほど、対策本部会議の中では、当初、発症する前は3人部屋を使つていて、その後、発症したあとで個室のほうに移つたというお話をされていましたが。その3人の方というのはもう検査のほうは済んでいるのか、そのあたりの今後の状況というのは、あるいはもう県外に出られてしまつて今後という形になるのか、いかがでしょうか。

医療統括監

いや、本日から検査、早ければ今日やっているとします。

記者

あともう1点だけ。その対象施設の消毒についてなのですが、今後、もし消毒される日程ですとか、方法等、あるいはその主管する団体部署等がもしおわかりになるのであれば教えてください。

医療統括監

消毒は、消毒方法、保健所のほうで指導助言しまして、施設の方にやっていただくことになると思いますが、ドライビングスクールですので、教習の施設の教室、手を触れる場所とかトイレだとか、トイレのドアノブとか、ほかに自動車教習に使う自動車がありますので、自動車の中の拭き、いずれも消毒薬を染みこませたペーパータオル等での清拭になりますので、それは丁寧にやっていただくということになると思います。

記者

それは保健所の方が同席して消毒されることになるのか、あくまでも指導した上でその施設の方が主導してやられるのか、どちらになるでしょうか。

医療統括監

いろいろです。今、保健所のほうで施設に行つて説明会等やっていますので、保健所が立ち会っているのではないかと思います。あとで確認したいと思います。

記者

すみません、知事にお伺いしたいのですが、全国的に若者の行動範囲がですね、その感

染拡大の一つのキーになっているというふうに全国的に言われている中で、今回このように県外からの若者の方が新型コロナウイルスの感染者として、第一感染者として発覚したということに関して、今知事はどのような所感をお持ちなのかお伺いしていいでしょうか。

知事

そうですね、若者が行動力があるというのは、平時ですと大変長所になるのではないかと考えておりますけれども、ただ、こういった感染症が大変拡大している中においてはですね、できるだけ周りの方のことも、また、社会のことも考えていただいて、行動を制限したり、自粛したり、そしてまた夜の行動と言いますか、送別会とかさまざまな飲み会というようなことだと、感染経路が特定できないというようなことも都市部では報道されているところでもありますので、また、仙台でもそういう事例が出てきていると聞いておりますので、くれぐれもやはりそういったことを自覚して、当面の間ですね、できる限り県外との往来は控えていただきたいというふうに思っております。

記者

山形県内の皆さんに呼びかけて浸透しても、やはり県外から人が入ってくるとなると、なかなか難しい点もございます。そういった意味で言うと、例えば周囲の自治体ですとか、大都市圏の自治体ですとかとの連携みたいなものというのは、今後どのようにお考えでしょうか。

知事

はい。それはですね、それぞれの都道府県が独立しているわけではございませんで、一つの国の中でやはり、往来というのは法的に止めるというようなことにはなかなかできない、難しいところだと思っています。ですから、全国知事会というのもございますので、やはり全国都道府県が連携してそういったことをですね、取り組むというようなことがやっぱり必要になっているのかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございました。

記者

共同通信の白神と申します。すみません、先ほど接触者の数の話が出てきたと思うのですが、少なくとも今、県で把握している接触者というのは、一緒に合宿で過ごしていた2人と、教官の方と、何人ぐらい少なくとも見積もっていらっしゃるのでしょうか。

医療統括監

最も接触濃厚だったのは、現時点では7人ですけれども、それ最優先で考えていますけれども、

あと24日から同じ、一番やっぱり接触が大きいのは、同じ日にスタートした人が、いろんなコースで、座学含めて多いと思いますので、そこに40名台の、40数人の方がいると、今、現時点でわかっておりますので、そこについてはその次に順次検査を拡大していきたいと考えております。

記者

これ、座学で40人ぐらい、一つの教室で教習を受けていたという認識でいいでしょうか。

医療統括監

40人で大きくわかりません。同じ日の人たちだけでないかもしれませんので、もっと確認する必要があると思っております。

記者

座学と、例えば教習車に乗った教習というのは確実にあったというのは確認できているのですか。

医療統括監

まだ始まってこの日にちですので、それほど多くなかったのではないかと思いますけど。

記者

それほどなかった。

医療統括監

ええ、まだ調査中、そういう濃厚接触の状況を含めて、接触度の第一優先、第二優先ということで、優先度をつけるところで人数等リストを作っておりますので、これは今調査中ということです。

記者

わかりました。あと、資料のほうで、25日から28日教習受講というふうにあるのですが、27日の段階で38度台の熱が出ているのですけれども、これは本人としては、熱が出ていたけれども、一応受講はしていたということでもいいですか。

医療統括監

受講終わった頃なのですけど、16時以降発熱したと記録がされております。我々としては、16時以降でも発熱直前でもいろいろなリスクを考慮して、この日から発病とみなして対応しなければいけないと思っております。

記者

28日も受けているようなのですが、これは熱が下がったから受けられると思って受けているということですか。

医療統括監

推定ですけども、合宿なので、なかなか合宿方式のドライビングスクールというのは、数年前のはしかも、麻疹もそうでしたけども、無理して、中断せずに無理してという、どうしてもそういう気持ちが働くのかもしれませんが、それは完全に私の推定です。たいしたことがないと思ったのかもしれませんが。この日は下熱したという記録が、してましたけども倦怠感があったということで。

記者

29日に再び発熱があったので、このタイミングで相談したということでもいいですか。

医療統括監

そうです。

記者

あと、ドライビングスクールのほうは女子大学生というふうに認めているのですけれども、それは県のほうでは言えないのでしょうか。

医療統括監

認めたというのは。

記者

女子大学生というふうに話していたのですけれども。

医療統括監

どこが。

記者

米沢ドライビングスクールです。

医療統括監

そうですか。であればそうではないでしょうか。

記者

そうでいいですか。あと、すみません、これ、3人で24日からずっと同じ宿舎に3人でずっと、28日まで過ごしていたということでもいいですか。29日に個室で静養というふうにあるのですけれども。

医療統括監

そうです。

記者

ありがとうございます。

記者

河北新報の岩田です。現時点で体調不良を訴えているような方というのはいらっしゃるのでしょうか。

医療統括監

現時点で、聞いておりません。

記者

あと、濃厚接触者の方の、その7人、最低でもということでしたけど、その同じ部屋の2人以外の内訳というのはどういう人たち、どういう接触があったと。

医療統括監

それはドライビングスクールの職員です。

記者

それぞれ何人ですか。

医療統括監

ドライビングスクールの職員、残り5人になります。

記者

教員が5人。ドライバーが1人ということですか。

医療統括監

そうです。

記者

わかりました。あと、濃厚接触した方には、県としては、自宅というか待機みたいなことを要請しているのですかね。

医療統括監

通常、新型コロナの感染者、濃厚接触者は2週間の自宅待機というか、健康観察で、お仕事をしている人であれば仕事に出ないでということになりますので、今回の濃厚接触の方も、そういう面で教官の方たちも自宅待機になりますので、ドライビングスクールを、教習を休止したというのはそういうこともあって、休止せざるを得ない状況なのだと理解しております。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

朝日新聞の上月です。ちょっと細かい事実の確認なのですが、この同じ部屋の3人、友達なのかかわからないですけど、2人は同じドライビングスクールの受講生であるということによろしいですか。

医療統括監

そうです。

記者

わかりました。あと、送迎車なのですけども、これはこの同じ部屋の2人以外の人間とも同じ車内で同席というか、同乗していたということなのでしょうか。

医療統括監

ほかの人が入っているとは聞いていません。

記者

それですと、同じ部屋の2人、トータル3人プラス教習所の送迎車運転手という。

医療統括監

毎日それだけだったかなどというのは、確認しておりません。同じコースに行く人は同じ車に、大体同じだとは聞いていますけども。

記者

ほかの教習生がその車内に入っていたということはないということですか。

医療統括監

ここのドライビングスクールは、宿舎が何か所かありまして。

記者

そこを渡り歩いて、他の。

医療統括監

渡り歩いてというか、スクールに近い宿舎と、今回のこの宿舎はスクールから遠いので車を使っているという。すぐ隣接している所にも宿舎があるという。

記者

なるほど。あと県内の感染症指定医療機関に感染者が入院する予定ということですが、今日中に入院するということでしょうか。

医療統括監

はい。

記者

今日中に入院するのですか。

医療統括監

そうです。

記者

あと一応確認なのですが、この女性、神奈川県在住ということですが、出身は山形県内ではないということよろしいですか。

医療統括監

違います。

記者

ありがとうございます。

記者

毎日新聞の的野と申します。先ほど回答の中で、ドライビングスクールのほうに新しい受講生の受入れを控えてほしいということの通知を改めて出したというお話だったのですが、けれども、これは県内全ての自動車教習所に出したということではよろしかったですか。

医療統括監

その通りです。

記者

分かりました。あとですね、宿舎、こちら直営の宿舎に滞在ということだったのですが、宿舎も米沢市花沢になるのですか。

医療統括監

いえ、ドライビングスクールの所在地はここですけれども、宿舎は市内に3か所くらいお持ちのドライビングスクールですので、その中の1つということ。

記者

米沢市内のということになる。

医療統括監

はい、そうです。

記者

あとですね、27日に38度台、その下に37度台、2つ資料にあるのですが、そちらそれぞれ細かく何点何度だったかというところまで分かれますか。

医療統括監

27日は16時以降に38度台ということでは分かりません。

記者

分かりました。細かい数値までは把握していないと。

医療統括監

はい。

記者

はい、以上です。ありがとうございます。

記者

山形新聞の佐藤です。よろしくお願いします。まず確認なのですが、PCR検査の流れを確認したいのですが、30日月曜日に県衛生研究所でPCR検査を実施というふうにあります、これは何回検査したとかっていうのはあるのでしょうか。

医療統括監

ちょっとPCR検査の技術的なことになりますけれども、新しい病原体の検出マニュアルということで、新型コロナウイルスは新しい病原体なので、国立感染症研究所で陽性検査のための検出マニュアルがございまして、その病原体を初めて検出する場合は、2段階で行うということになっていまして、1例目はですね。昨日の30日のこの1例目については初めて陽性が出たということなので、通常リアルタイムPCRという検査を行っているのですが、それで陽性と確認された場合それがその検査施設で初めてのケースの場合は、更にコンベンショナルPCRということで、ウイルスのシーケンスと言いますけれども、ウイルスの塩基配列を全て確かめる作業を行う必要があるということで、それを行うのに丸1日近くかかるという、少し昨日のほうからすぐスタートしましたけれど、それを確認するというので、塩基配列まで、シーケンスまで確認した結果、間違いがないということが分かって、確定ということになりました。これは1例目なので、今後2例目からはリアルタイムPCRだけで陽性の判定をしていいというマニュアルになっておりますので、本日以降の検査で陽性の場合、今までより早く結果を出すことができるということになっております。

記者

具体的にちょっと教えていただきたいのですが、1回目の検査は30日の何時ぐらいに陽性という結果が出たのでしょうか。

医療統括監

30日の午後です。

記者

午後何時頃でしょうか。

医療統括監

午後何時だったか。

記者

夜。

医療統括監

夜ではないです。

記者

夜ではないですか。

医療統括監

今頃だったと思います。

記者

本日、再度やって陽性と確定したということで。

医療統括監

再度でなく別の検査というか。リアルタイムPCRでなくてシーケンスをまず検査をやって、2ステップ目の検査を行いまして、それで確定をさせてもらったということです。

記者

確定は午前中になるんですか。今日の。

医療統括監

そうです。

記者

午前中。

医療統括監

午前中です。

記者

あとすいません、このドライビングスクールの教習の中止というのは、いつぐらいまでとかっていうのはあるのでしょうか。

医療統括監

ありません。

記者

それはもう教習所の判断に委ねるということになるのでしょうか。

医療統括監

教習所と、安全確保されるということで保健所との協議だと思います。

記者

すいません、先ほどからちょっと質問で出ていますけれども、県外からの教習生を、受入れについて自粛というのですけれど、それはどのぐらい強制力というか、あるのかというのがちょっとよく分からないのですけれども。

医療統括監

これ倫理的に、現在東京都をはじめ新型コロナウイルス感染症が爆発的に増えるんじゃないかというそういう時期にあって、そういう所からわざわざ山形に来てという、そういう、今の状況を捉えれば非常にリスクが高いので、1例感染者が出れば同じように教習を中止しなければならない状況にあるということを考えれば、こういう状況の中であっては新たな教習生の教習スタートは見送ったほうがいいんじゃないかという、そういう要請ということで強制力はございません。

知事

ただ県民の安全を守らなければならないということをきちんと伝えてほしいというふうに言っております。

記者

すいません、あと最後に濃厚接触のあった方に対するPCR検査を本日から始めるというような話がありましたけれども、これは例えば1回陰性という方、例えば出ても、何回か繰り返していくという認識でよろしいのでしょうか。

医療統括監

今回、先ほど申し上げましたように、最も濃厚な接触歴ある人は最初の接触のところから約1週間ぐらい経っていますので、既に今日行っても陽性になる可能性が否定できないということで優先的に行いますが、今日陰性であっても最終接触から2週間後くらいまでは経過を見て、途中で発熱等何らかの症状があれば、最近発熱だけではなくても味がしないとかいろいろあり

ますので、何らかの体調不良があれば、そこで検査を何かしますし、なくても2週間経過後に必要なに応じてすることになるかと思えます。何もなければそのまま、2週間経っても何もなければそこで終わるかもしれませんが、そこは状況を見てやりたいと思います。

記者

ありがとうございます。

記者

産経新聞の柏崎です。手短に伺います。女性ですね、渡航歴なのですけど、発症前14日間の渡航歴ないということなのですが、先ほどの本部員会議ではその前はわからない、あるかもしれないというをおっしゃっていたので、その辺のところ教えていただけますか。

医療統括監

「14日以内の」と書いていますけれど、渡航歴自体あるとは聞いてないです。

記者

ないんですか。

医療統括監

ないですね。1か月前とか2か月前あるかというのはちょっと私聞いてないので、そういう質問ですか。

記者

それ以前は分からない。

医療統括監

記録の中には、最近の渡航歴はないという。1か月間はないそうです。

記者

はい、ありがとうございました。

記者

日本経済新聞の浅山です。先ほど知事が強制力の問題の点がありましたけれども、法的な根拠があるようなですね、もう全面禁止を求めるとか移動をしないでほしいとか、そういった何か、国に対してやはりこういう時だからこそ、緊急事態宣言とかですね、そういういったものを早く出してほしいといったお考えはお持ちでしょうか。

知事

そうですね、今回が1例目でありまして、しっかりとその封じ込めをやらなきゃいけないという状況のところだと思っております。また発生が確認されたということでもありますので、まずもって県内の企業といたしますか、そういった経営者の皆さんにですね、県民の命を守るという視点からも、これからのことについてしっかりともう受入れしないというようなことを、こちらから通知を出したということでもありますので、やはりそれをしっかりと守っていただくということが大事かなと思っております。その上というようなことになろうかと思えますけれども、でも本当に法律、特別措置法というようなこと、非常事態宣言とかですね、そういったことまで求めるかどうかということですか。

記者

つまり私権の制限をですね、もう法的な裏付けがある中でやらなければもう拡大は防げないんじゃないかということも、いわゆる首長として感じていらっしゃるか、いやまだまだ今の段階ではお願いで判断してもらうのが十分なのか。

知事

はい。専門家というような方のご意見もあるかもしれません。それはやはりこれからの数日といたしますか、そうですね、1週間くらいどういうふうになっていくのかということが、やはり本県の場合はしっかりと見定めていくことが大事かなと思っております。47都道府県のうちの44番目に発生したということでもありますので、東京や大阪以外のといたしますか、地方のほうでは爆発的に感染している状況とは聞いていないところでありますので、首都圏、まずはそういった拡大している地域をどうしていくのかというようなこと、濃淡がやはりあるのかなというふうにも思っているところであります。しっかりと推移を見極めていきたいというふうに思っています。